

高齢になっても安心して暮らせる環境とは

～あんしんコールセンターの実践～

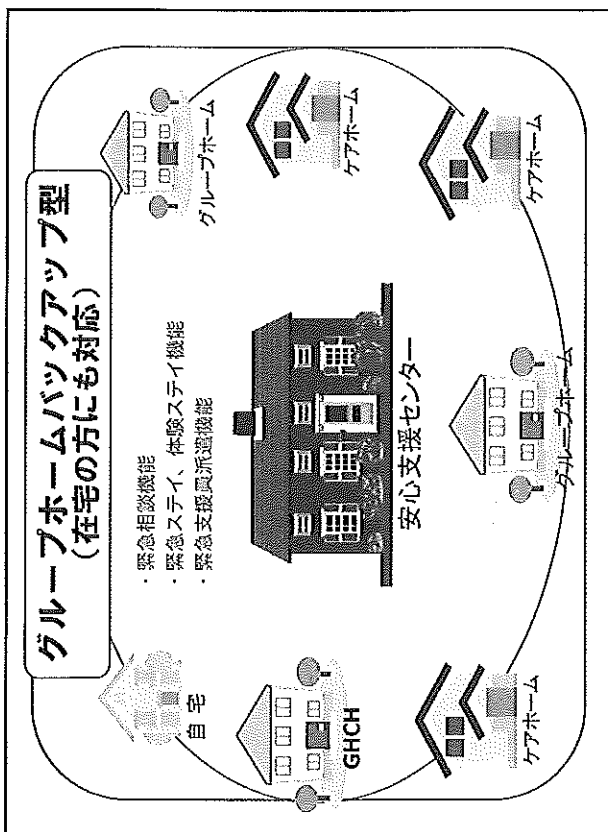
社会福祉法人みんなでききる
副理事長 片桐公彦

第1回全国手をつなぐ高齢者協会全国大会分科会 第4分科会

地域のセーフティネットを構築するために

～安心生活支援事業（あんしんコールセンター）について～

2



こんな風に思っていました。

- ・ どうして決まって、朝に「お祖父ちゃんが亡くなりました」と電話が入るのだろうか？
- ・ どうして「入所ではなくGH」というルートが地域生活支援のゴールになるのだろうか？
- ・ 「本当は、できる限り一緒に...」という本音
- ・ 生活を丸ごと引き受けなくても、「ここ」のスポットの支援で継続できる生活があるのではないだろうか？

3

日常に生きる専門性とは

みんなでききる

障害児をもつ家庭では、いつ、どんな緊急な事態が起きるかわからない。それは障害児に限らず、どこの家庭でも抱える不安であるが、そんな時、いつでもだれでも、気軽に利用できる、地域の中の宿泊施設、緊急一時預かり施設がホストだった。

泊まれるのは障害児に限る必要はない。障害のある子や、その親の事情によって、その子の兄弟姉妹を預かっていいのではない。乳香子を抱え老人を抱え、この地域で生きている人たちがさらに、たまたま障害を持つ生まれた子を育てることになっても、そのことが苦しみならず、自然に共に生き合っていけるように。

専門職とよばれる人間たちや行政システムとは、そもそも、そこに住む人たちが共に生き合っていくための手だてを提供する立場にあるのではない。か。邦夫は、幾度もくり返して「専門性を日常性にいかす」ということばの、具体化を、療育センターに試みようとしていたのだ。

「たにかいはいのち果てる日まで 医師中井邦夫の愛の実証」 向井奈子著（エンバウメント研究所）
1984年 新潮はより刊行され、一版、絶版となるが後に復刊

みんなでききる

日常に生きる専門性とは

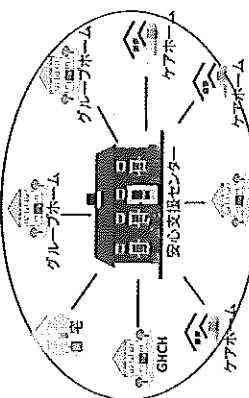
どの子も自分の地域で、保育所や学校へ行き、自分の家で安心して生活できるには、家庭にも訪問指導が行われなければならない。

保育所や学校へは医療スタッフのチームが巡回指導を行う。そして、親子共々途方にくれるような状態になった時は、障害をもつ子でも、その家族でも気楽にかけこみ身をよせられるホストでも要る・・・。

「専門的なシステムと日常のかかわりか要るのです。必要な時に、ざあっと流れていける二重、三重の援助機構です。センターの中にはホストもあります。外で、住んでいるところと困っている時、緊急預かりや相談を受けるチーム、それから幼稚園や学校に出かけていってサービスをするチーム、家の中はどうなっているんや、住んでいる近隣で住みやすいようにできてるかどうかアプローチする訪問チーム。もろもろのサービスと、子どもや地域をコーディネートするスタッフも要ります。夢物語ではないですよ。お互いに努力してつくり出していきたいと思います」

「たにかいはいのち果てる日まで 医師中井邦夫の愛の実証」 向井奈子著（エンバウメント研究所）
1984年 新潮はより刊行され、一版、絶版となるが後に復刊

安心支援センター（案）



- ① 緊急コール対応
※24時間対応するCHCHからの緊急ヘルプコールの対応（24時間対応）
- ② 緊急時支援
※24時間サービス提供、緊急した家族への支援と実施。
- ③ 緊急時スタッフ
※24時間緊急対応などに対応した緊急一時預かり施設
- ④ アドバイス
※24時間緊急対応（共同生活、一人暮らし）を希望して一定期間の体験生活（共同生活）
- ⑤ 専門的ケアスタッフ
※24時間緊急対応（共同生活、一人暮らし）を希望して一定期間の体験生活（共同生活）
- ⑥ 支援スタッフのOJT

センター概要

《職員配置：24時間3交代制：3人組》
※安心コーディネート配置（業務①・②・③・④・⑤・⑥の全体調整）
※医療スタッフ配置（医師・看護師）
※シフト制
※CHCH事業（業務③）定員：4名
※グループホーム（業務④・⑤）定員：7名
※訪問看護サービス（業務⑥）：ホームヘルプ、行動支援サービス、訪問看護サービス
※交流スペース（業務⑥）
※専任所（業務全体の事務機能）

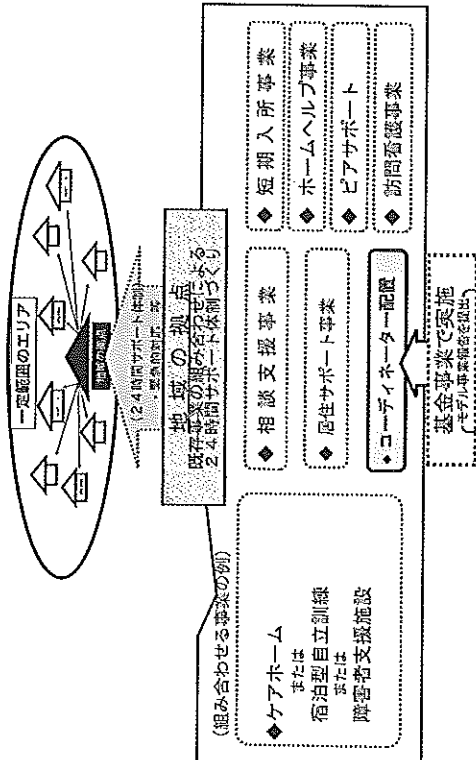


総合的相談機能

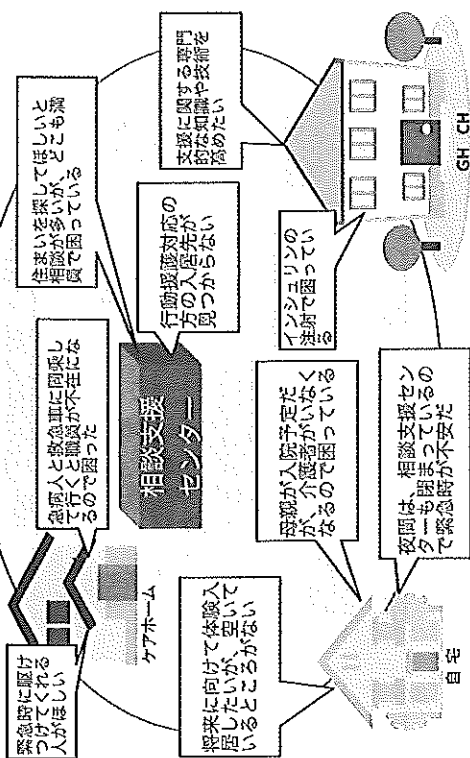
※総合的な相談機能（地域移行、居住サポートなど）
※24時間対応（地域移行、居住サポートなど）

厚生労働省資料

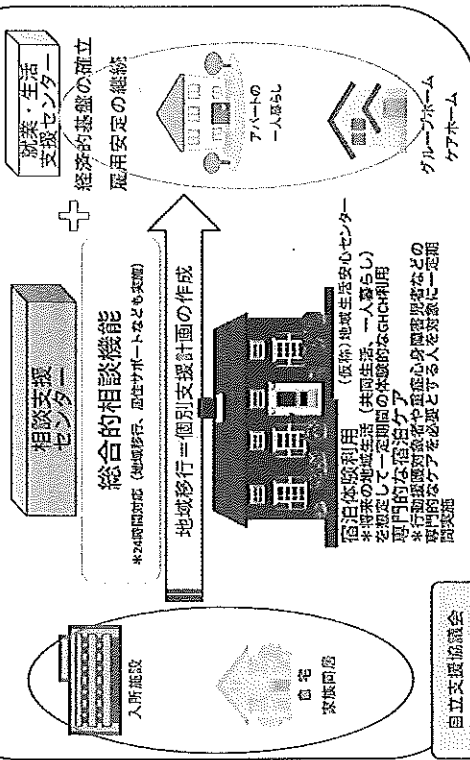
障害者を地域生活を支える体制づくりモデル事業 ～イメージ～



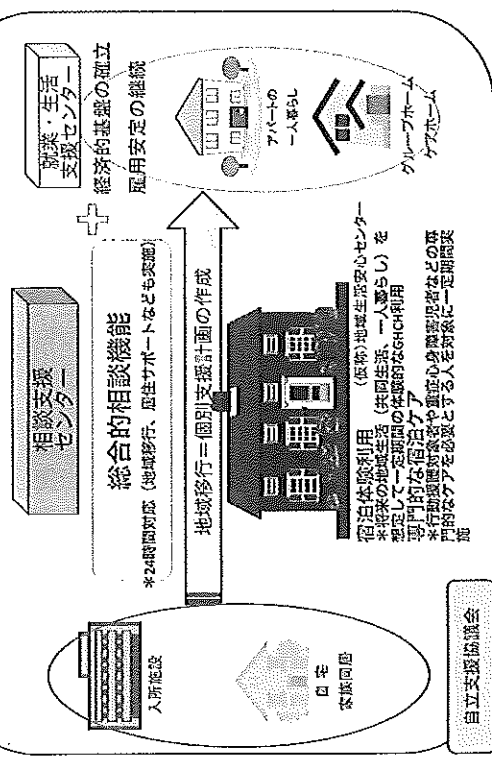
あんしんコールセンター (安心生活支援事業) イメージ図



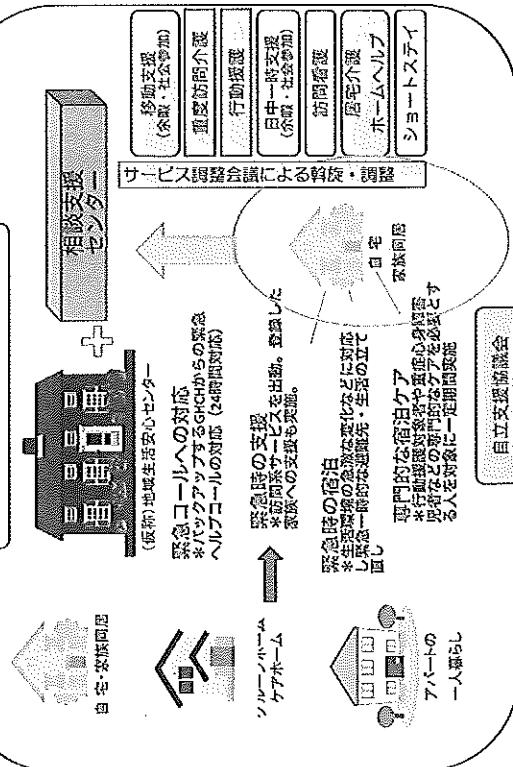
自立訓練（宿泊型）を軸にした支援



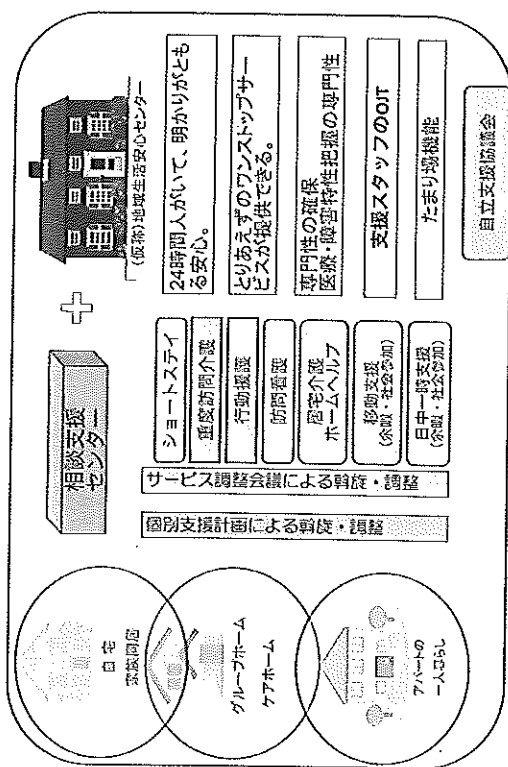
地域移行・体験型



危機介入型

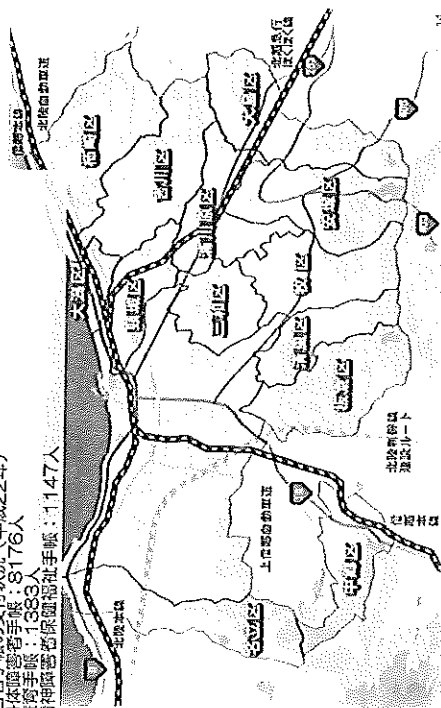


支援を求め地域に



上越市プロフィール

人口：203,500人（2011年3月1日現在）
面積：973.54km²（香川県の約半分の面積）
人口密度：209.5人/1km²（香川県の約半分の人口密度）
市庁舎移転：2005年1月1日（香川県の約半分の市庁舎移転）
市庁舎移転後の市庁舎：1183人
市庁舎移転後の市庁舎：8176人
市庁舎移転後の市庁舎：1147人



当機センターの機

緊急相談機能…24時間365日の相談に対応

緊急ステイ機能…短期入所の支給決定がない方も利用可能

緊急ヘルパー派遣機能……ヘルパーの支給決定がない方でも対応可能

対象者は「障害の疑い」からOK...



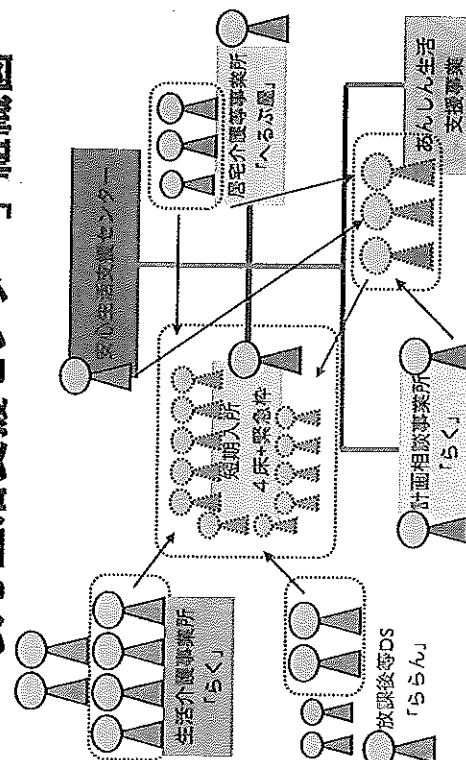
現在及將來

コーディネーター1名(専従)
支援スタッフ…7名(兼務)

サツコ・ディネーター 2名(兼務)

支援スタッフ…7名(兼務)

社会福祉法人りとるらいふ
「安心生活支援センター」組織図

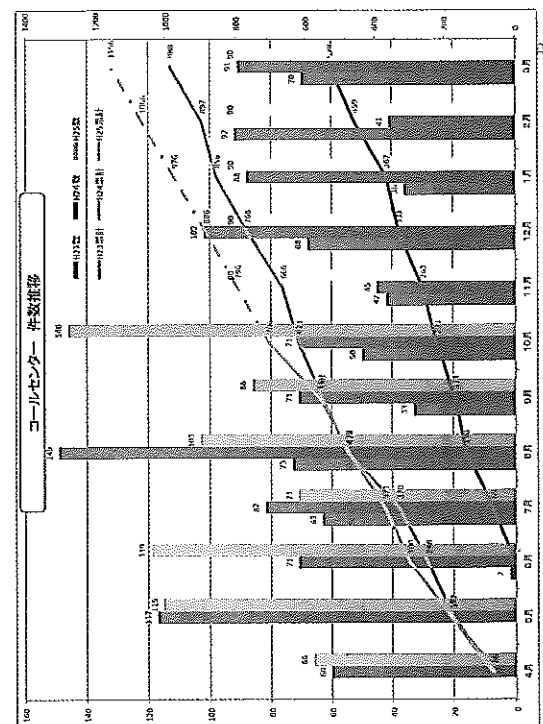
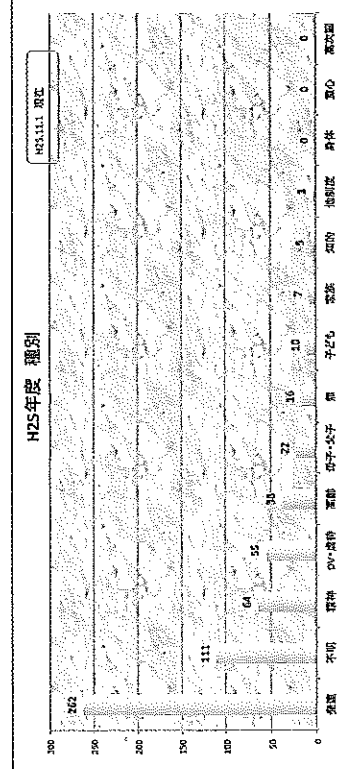


[illegible]

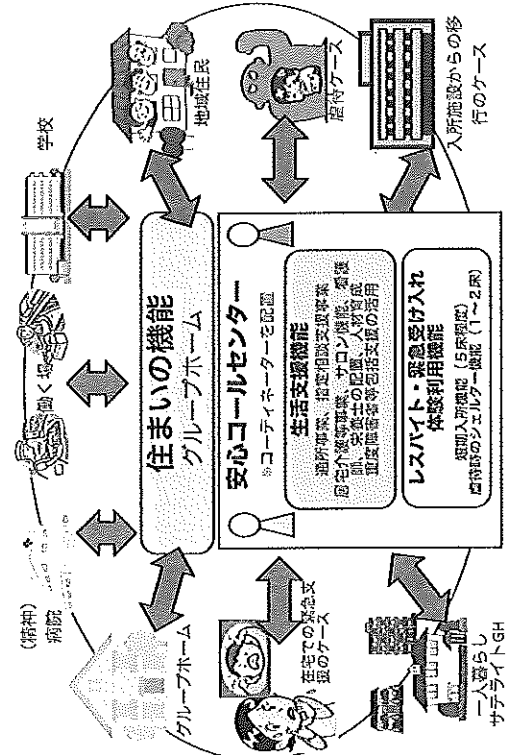
- ・ 家庭内暴力の障害児養の一時預かり（その後、宿泊訓練を実施。服薬調整）
- ・ DV被害の女性及びその子どもの一時保護
- ・ 肺炎になった重度自閉症児の入院時の付き添い支援（経済課題あり）
- ・ 短期入所の支給決定のない障害児者の緊急のステイ
- ・ 介護放棄の高齢者の緊急ステイ
- ・ 祖父、父、本人のいずれも発達障害の家族の受け入れ
- ・ 普通高等学校に通う少年の家族関係の悪化による一時保護（3日程度）なブレイクスティ
- ・ 19歳で親から心理的、精神的虐待を受けている少女の緊急相談

◎あんしん生活支援事業の実績および見込み

	電話	来所	受け入れ記録	宿泊	相談・同行	訪問	対応合計
H23	141	32	165	57	324	116	835
H24	465	68	362	114	867	248	2124
H25見込	600	150	380	120	1100	350	2700
H26予測	800	180	400	150	1400	450	3380

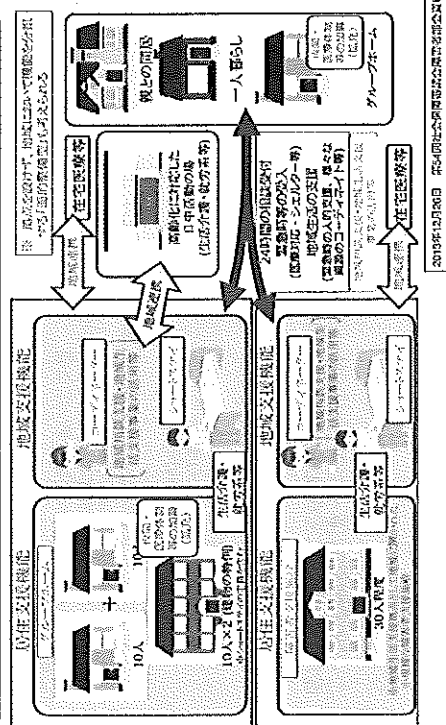


多機能拠点整備型のイメージ



障害児・者の地域生活支援の推進のための多機能拠点構想 （地域生活支援拠点）

地域生活支援拠点として、居住支援機能と地域支援機能の一体的な整備を推進



2019年12月16日 第4回社会福祉協議会常任委員会